

福島県産品販売等支援協力のお願

福島第一原発事故の影響により、依然として福島県産品に対する風評被害が収まらない中、東京電力からの要請を受け、本会では会員の皆さまに本年6月26日付けで「福島県産品販売協力をお願い」をさせていただきました。また、このほど復興庁が風評対策のさらなる

強化の方向性を示すため「風評対策強化指針」を取りまとめ、復興大臣より本会に対して、より一層の「被災地産品の消費拡大」の協力要請がありました。

会員各位におかれましては、あらためて社内マルシェ（販売会）等の開催、贈答品での活用、従業員食堂での食材利

用のほか、福島県の現状を正確に伝えるための講演会開催等、福島県を支援する取り組みを積極的にご検討くださいますよう、お願い申し上げます。現在、10社よりご協力の連絡をいただいております。今回は、4社のイベント等の様子を紹介いたします。

■日本学生支援機構

東京国際交流館国際交流フェスティバルにて福島県産品販売コーナーを開設

本イベント（8月16日開催）は世界約80の国・地域からの外国人留学生等が生活する「東京国際交流館（東京・お台場）」で開催された。外国人留学生や日本人学生、地域住民や子どもたちとの交流を通じ、相互理解を深めることを目的としたイベントだ。当日は、世界の料理のブースが並ぶ会場の中央に福島県産品販売コーナーが設置され、福島県の観光PR隊のパフォーマンスやゆるキャラの参加もあり、福島県産品の安全性を世界に発信する有効な機会となった。この日のブースの売り上げは約18万円に上った。



■日本航空

「がんばるJAL大作戦『東北支援プロジェクト』（福島県）」を開催

今年4月にオープンした日本橋ふくしま館「MIDETTE」で開催された本イベント（8月19日開催）は、日本航空の大西賢会長をはじめとした役員の方や、福島県出身のパイロット、客室乗務員などの社員の方々が、観光パンフレットやチラシを配布し、福島県への旅行を呼び掛けた。店内では「福島県の桃」をメインに県産品販売を行った。チラシ約400部、うち約1,000枚を配布し、この日の来場者は約1,400人に上った。このイベントの様子は、複数のテレビや新聞でも報道され、福島県産品や観光への大きなPRとなった。



■横河電機

社員や地域住民対象の夏祭りにて福島県産品販売コーナーを開設

横河電機では、本社のある東京・武蔵野市で社員や地域住民を対象とした「横河まつり」を毎年開催、子どもから大人まで多くの人でにぎわう恒例のイベントとなっている。本イベントの一角に福島県産品販売コーナーを開設し、西島剛志社長をはじめとする横河電機の役員の方々が呼び込みを行った（7月25日開催）。この日は天候にも恵まれ、夏祭りの来場者は約13,000人に上り、桃や喜多方ラーメンバーガーなどが好評で、売り上げは14万円を超えた。



■ダイキン工業

ダイキン納涼祭・盆踊り大会にて福島県産品販売コーナーを開設

ダイキン工業では、地域住民との交流活動として、毎年ダイキン納涼祭・盆踊り大会を全国4カ所の製作所などで開催している。地元の田中和明草加市長も参加する地域の一大イベントの草加事業所納涼祭にて、福島県産品販売コーナーを開設した（8月22日開催）。イベントの開会挨拶では、浴衣姿の林由紀夫東京支社長が夏休みに福島に旅行した話を披露し、来場の方々へ福島県産品の購入を呼び掛けた。この日の売り上げは約11万円に上った。



本件に関するお問い合わせ・ご連絡は、下記担当者までお願いします。

震災復興委員会 担当：桧垣・神山 TEL 03-3211-1271